

第9節 周産期医療（第6次計画）

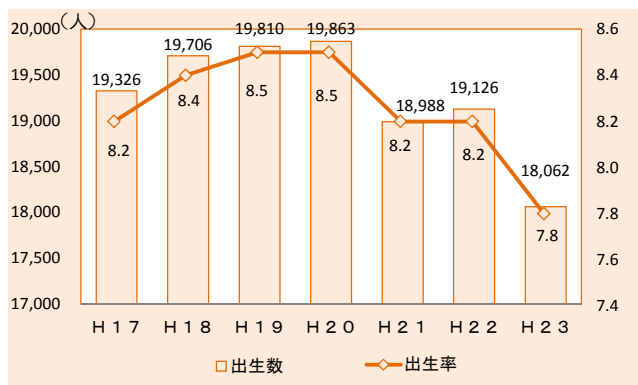
- 周産期医療機能の集約化・重点化を図ります。
- 医師の確保と助産師の専門性を活用していきます。
- 新生児医療提供体制の充実を図ります。
- 周産期医療の円滑な連携体制を整備していきます。
- ICTによる周産期医療ネットワークシステムを構築し、運営していきます。

現状と課題

1 宮城県の周産期医療の現状

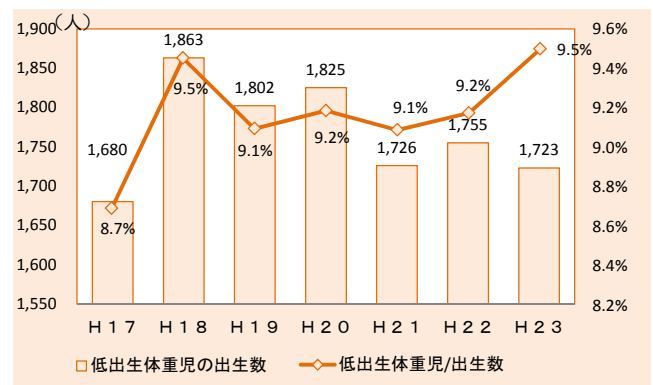
- 本県では、出生数、低出生体重児（出生時の体重が、2,500g未満の児）の出生数ともに減少傾向にあります。出生数全体に占める低出生体重児の割合は微増傾向で、新生児集中治療室の利用者数はやや増加傾向にあります。

【図5-2-9-1】県内の出生数の推移



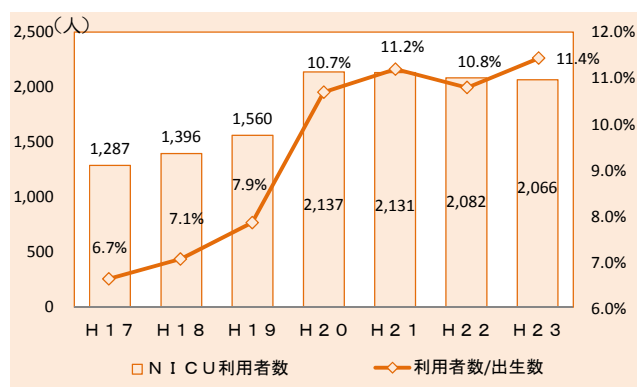
出典：「人口動態統計」（厚生労働省）

【図5-2-9-2】県内の低出生体重児の推移



出典：「人口動態統計」（厚生労働省）

【図5-2-9-3】NICU利用者数の推移



出典：「宮城県における周産期医療の現状報告書」（仙台市医師会ほか）

2 医療提供体制の現状と課題

(1) 医師の状況

- 本県の産科・産婦人科医師数はほぼ横ばいで推移していますが、医師数が不足している状態が続いています。産科・産婦人科医 1 人当たりの年間取扱出生件数は、仙台市とそれ以外の地域では取扱件数に顕著な差があり、特に県北地域においては常勤医師 1 人当たりの年間取扱出生件数が多い状況にあります。

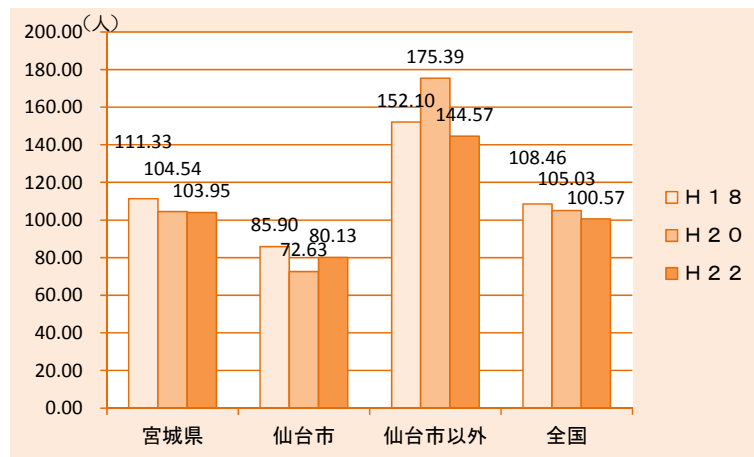
【表5-2-9-1】産科・産婦人科医師数

| 圏域 | 医師数 | 分娩施設 | | | 分娩施設以外 | | | | 助産師数 |
|---------|-----|------|------|------|--------|------|-------|-------|------|
| | | 計 | 内 病院 | 内診療所 | 計 | 内 病院 | 内 診療所 | 内 その他 | |
| 仙南 | 14 | 12 | 7 | 5 | 2 | 1 | 1 | - | 46 |
| 仙台 | 188 | 135 | 104 | 31 | 53 | 8 | 38 | 7 | 544 |
| 大崎・大崎 | 13 | 13 | 6 | 7 | - | - | - | - | 37 |
| 栗原・栗原 | 1 | 1 | - | 1 | - | - | - | - | 3 |
| 石巻・石巻 | 13 | 7 | 4 | 3 | 6 | - | 6 | - | 35 |
| 登米・登米 | 1 | 1 | - | 1 | - | - | - | - | 3 |
| 気仙沼・気仙沼 | 5 | 3 | 3 | - | 2 | - | 2 | - | 11 |
| 合計 | 235 | 172 | 124 | 48 | 63 | 9 | 47 | 7 | 679 |

出典：産科・産婦人科医師数：平成23東北大学病院産婦人科調

助産師数：「保健師，助産師，看護師及び准看護師の業務従事者届・平成22年集計」（県保健福祉部）

【図5-2-9-4】産科・産婦人科医師 1 人当たりに対する年間取扱出生数

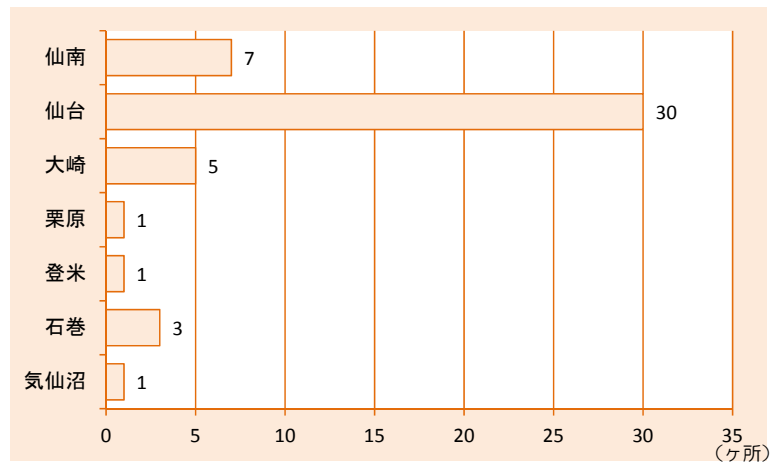


出典：「医師・歯科医師・薬剤師調査」（厚生労働省）

(2) 医療施設の状況

- 産科・産婦人科を標ぼうしている病院・診療所の数は横ばいで推移していますが、妊婦健診を実施している医療施設、分娩を行っている医療施設は、ともに減少しており、里帰り分娩等を制限している医療施設もあります。また、助産師が看護業務に携わること等で、本来の専門性を発揮できない状況も見受けられます。
- 妊産婦、乳児をめぐる問題への対応については、母子保健関係機関との連携について周産期医療機関にも社会的要請が高まっています。

【図5-2-9-5】地域毎の分娩取扱医療機関数



出典：平成24年医療整備課調

(3) 宮城県周産期医療システム

- 各地域において、妊娠、出産から新生児に至る専門的な医療を効果的に提供するため、仙台赤十字病院を総合周産期母子医療センターに指定し、各地域の地域周産期母子医療センター等との連携を図り、周産期医療体制の整備を進めています。(図5-2-9-7, 5-2-9-8)

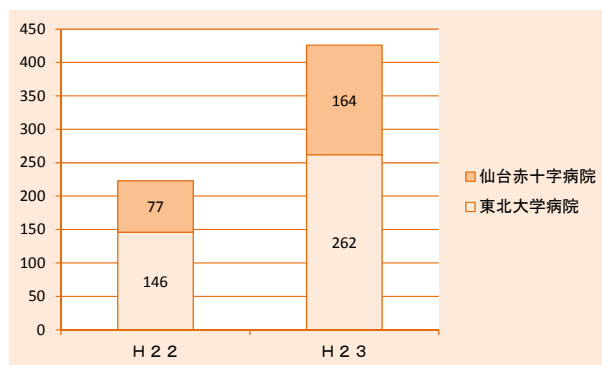
(4) 周産期救急搬送体制

- 母体の円滑な搬送及び受入を行うため、東北大学病院と仙台赤十字病院に周産期救急搬送コーディネーターを配置し、関係機関間の連携の確保に努めています。

【表5-2-9-2】周産期救急搬送コーディネーターの調整体制

| | 母体救急 | | | 切迫早産 | 母体救命最優先 |
|-------|--------|------|---------|----------|---------|
| | 分娩後 | 胎児死亡 | 胎児生存 | | |
| 平日 日中 | 東北大学病院 | | | 救命救急センター | |
| 平日 夜間 | 東北大学病院 | | 仙台赤十字病院 | | |
| 休日 | 東北大学病院 | | 仙台赤十字病院 | | |

【図5-2-9-6】周産期救急搬送コーディネーター事業・コーディネート実績



出典：「周産期救急搬送コーディネーター事業報告書」(医療整備課)

(5) 産科セミオープンシステム

- 分娩を行っている医療施設の減少等，産科医療提供体制が大きく変化している中で，分娩施設と健診施設が機能分担を図る産科セミオープンシステムの導入により，医療機関間の連携による産科医療提供体制が確立されています。現在，仙台，県北，石巻，気仙沼地域で産科セミオープンシステムが稼働しています。
- 現在，仙台，また，仙台をモデルケースとして石巻地域や大崎地域など，県北地域でもそれぞれの地域の実情に合った産科セミオープンシステムを構築し，推進しています。（図5-2-9-9～5-2-9-12）

(6) 助産師外来の連携体制

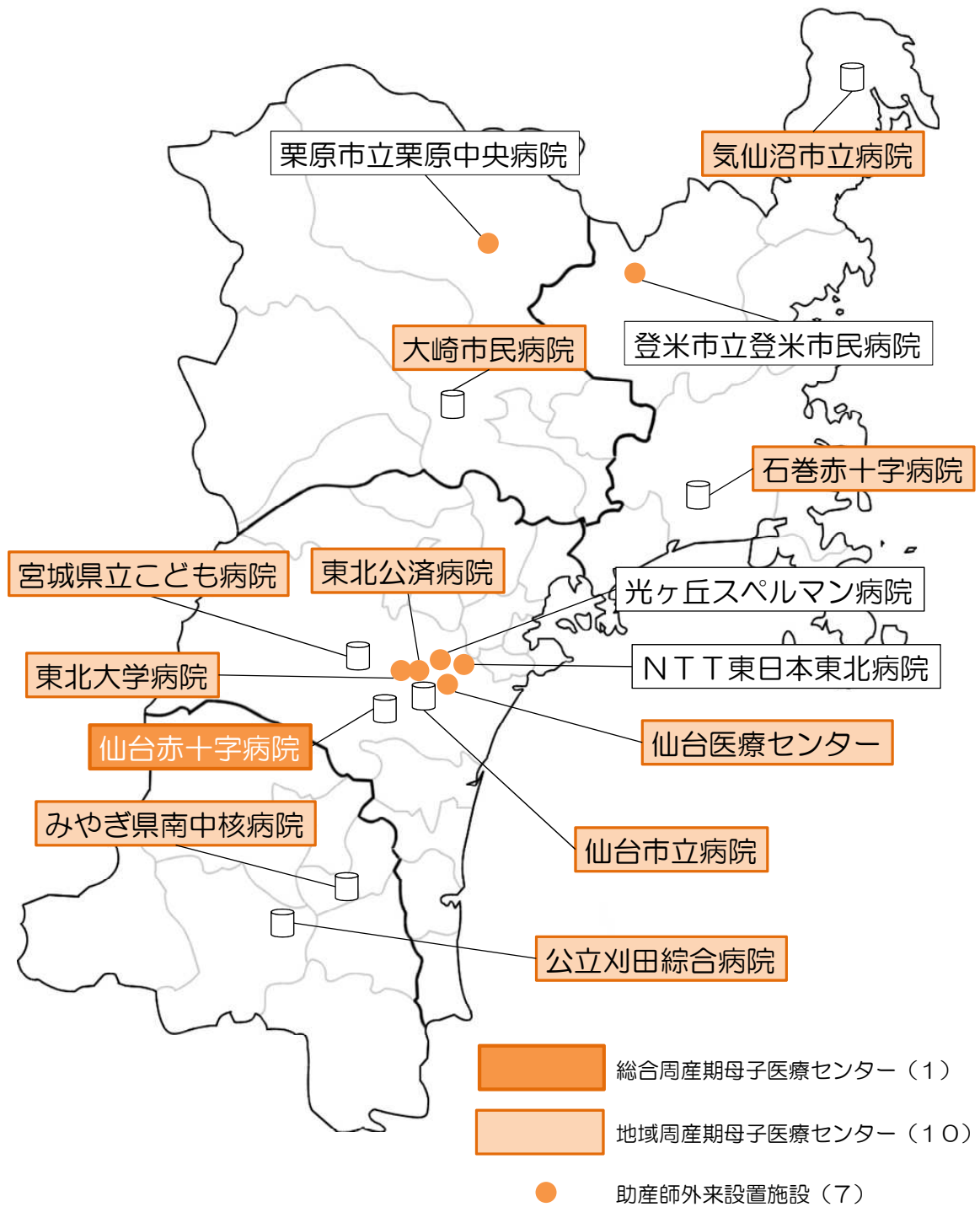
- 周産期医療の重点化・集約化を図る中で，産科のない地域については，助産師外来を設置し，妊婦健診を行っています。現在，7医療機関で助産師外来が設置されています。（図5-2-9-7，表5-2-9-3）

(7) 新生児医療の状況

- 国の整備指針によると，都道府県のNICU病床数の目標は，出生1万人対25床から30床となっています。本県の出生数（平成22年19,126人）をもとに換算すると48床から58床となります。
- 本県のNICUについては，平成24年4月現在で68床ありますが，医師や看護師の人員配置や設備などの施設基準を満たしている診療報酬加算対象の病床だけで見ると42床で，目標とする病床数を下回る状況にあります。施設面では充足している状況ではあるものの，人員配置等機能面でカバーできていない状況です。（図5-2-9-13）
- また，重度心身障害児の受け入れ体制が整っていないために，慢性重症呼吸不全などの児童が他施設に移行することが出来ず，効率的な病床運営が困難となっていること等により，他県への搬送も発生しています。

周産期医療の機能の現況

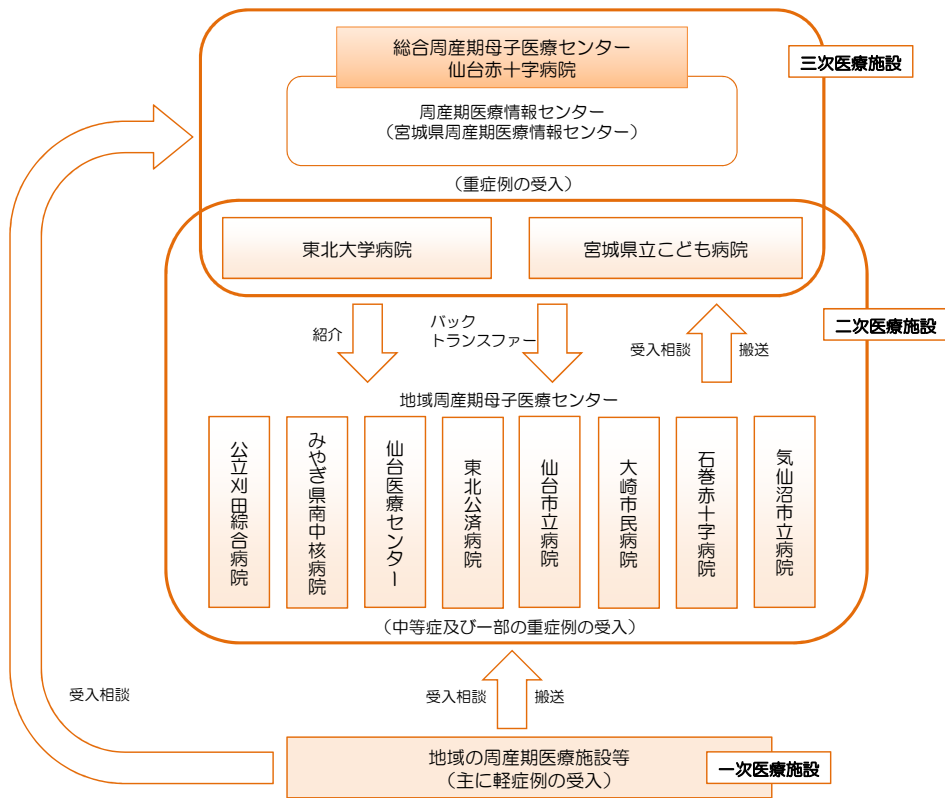
【図5-2-9-7】 総合・地域周産期母子医療センターと助産師外来設置施設の配置図



【表5-2-9-3】 宮城県内の助産師外来を行っている施設

| 名 称 | 名 称 |
|------------|------------|
| 東北大学病院 | 光ヶ丘スペルマン病院 |
| 仙台医療センター | 登米市立登米市民病院 |
| 東北公済病院 | 栗原市立栗原中央病院 |
| NTT東日本東北病院 | |

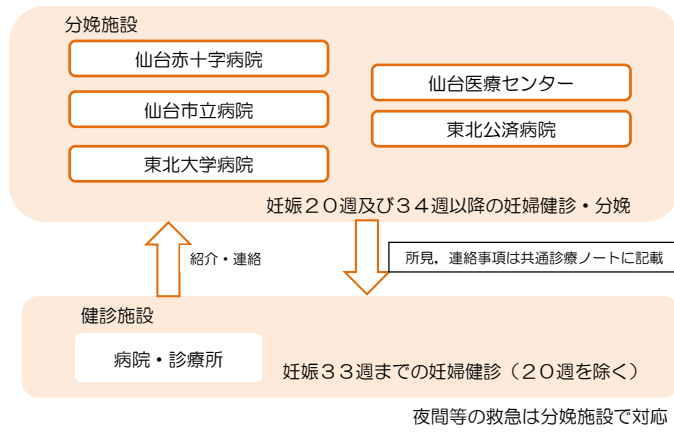
【図5-2-9-8】宮城県周産期医療システム概念図（平成24年4月現在）



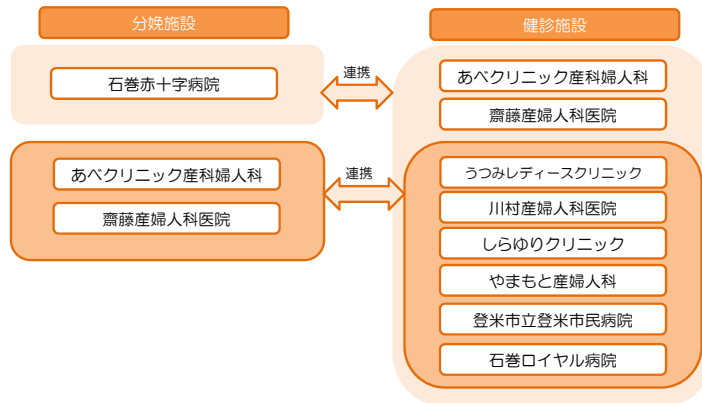
【表5-2-9-4】宮城県内の分娩を行っている施設（平成24年4月現在）

| 医療圏 | 名称 | 医療圏 | 名称 | 医療圏 | 名称 |
|------|-----------------|------------------|--------------------|------------------------|--------------------|
| 仙南 | 公立刈田総合病院 | 仙台 | 向仁会永井産婦人科 | 仙台 | 桂高森 S・S レディースクリニック |
| | みやぎ県南中核病院 | | 桜ヒルズウィメンズクリニック | | とも子助産院 |
| | しろがね産科婦人科クリニック | | 長池産婦人科 | | 森のおひさま助産院 |
| | 産婦人科・内科・小児科鈴木医院 | | 結城産婦人科医院 | 大崎・栗原 | 大崎市民病院 |
| | ウィメンズクリニック金上 | | T'sレディースクリニック | | 中川産婦人科 |
| | 宮上クリニック | | 佐々木悦子産科婦人科クリニック | | わんや産婦人科 |
| | 毛利産婦人科医院 | | 吉田レディースクリニック | | 関井レディースクリニック |
| 仙台 | スズキ記念病院 | | S・Sレディースクリニック | ささき産婦人科クリニック | |
| | 東北大学病院 | | 大井産婦人科 | ははこっこ助産院 | |
| | 宮城県立こども病院 | | いけの産婦人科小児科医院 | 石巻・登米・気仙沼 | 石巻赤十字病院 |
| | 東北公済病院 | | 遠藤マタニティクリニック | | 気仙沼市立病院 |
| | 仙台医療センター | | ウィメンズクリニック利府 | | 結城産婦人科分院 |
| | 光ヶ丘スベルマン病院 | | 富谷医院 | あべクリニック産科婦人科 | |
| | 仙台市立病院 | | 新富谷 S・S レディースクリニック | 齋藤産婦人科医院 | |
| | 仙台赤十字病院 | メリーレディースクリニック | 計 | 48施設 | |
| | 坂総合病院 | はらや・ゆうマタニティクリニック | | (病院 15, 診療所 30, 助産所 3) | |
| 松島病院 | 春ウィメンズクリニック | | | | |

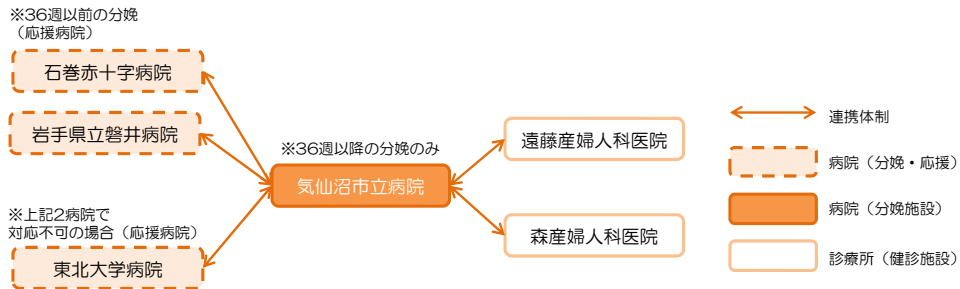
【図5-2-9-9】 仙台産科セミオープンシステム



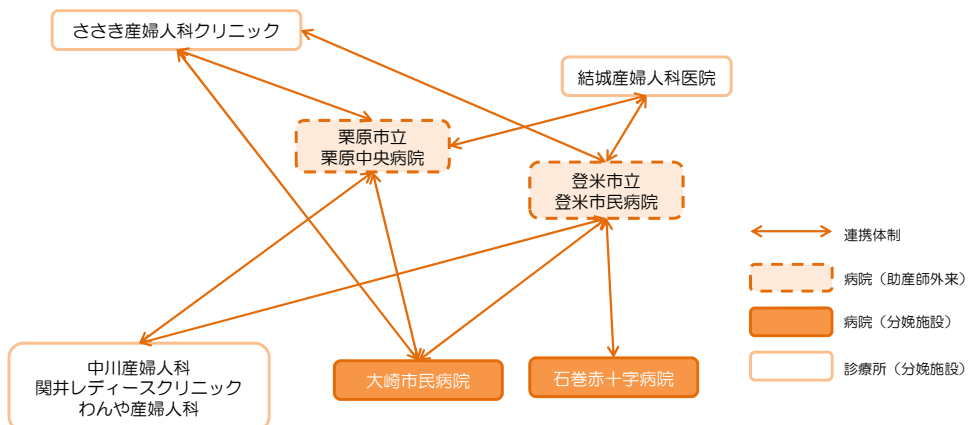
【図5-2-9-10】 石巻産科セミオープンシステム



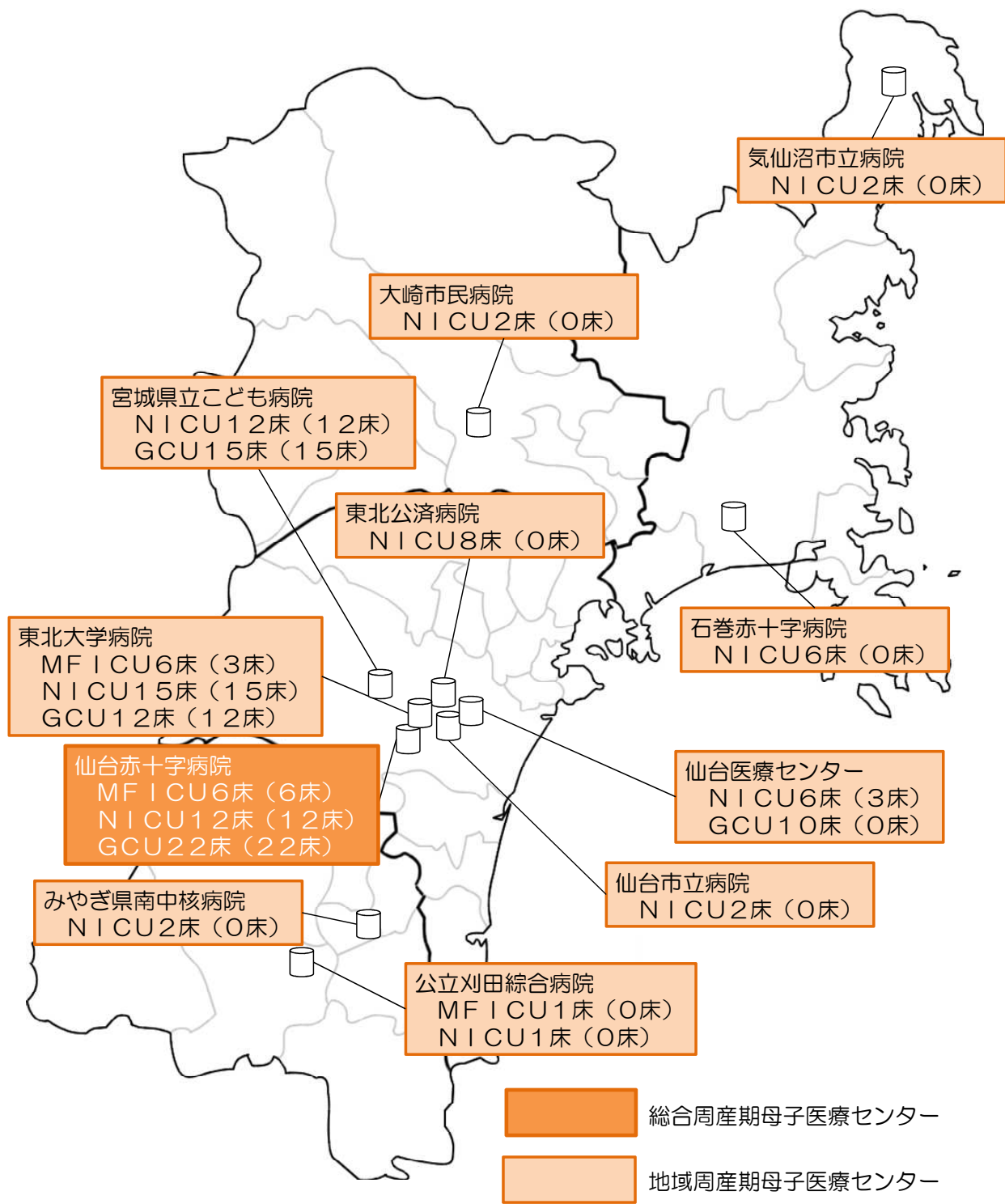
【図5-2-9-11】 気仙沼産科セミオープンシステム



【図5-2-9-12】 助産師外来の連携を含めた県北産科セミオープンシステム



【図5-2-9-13】新生児医療施設整備状況



() 内は診療報酬算定対象病床数

出典：平成25年1月 医療整備課調査

施策の方向

平成25年3月に策定された宮城県周産期医療体制整備計画(平成25年度～平成29年度)に基づき、周産期医療体制の整備を推進します。

1 周産期医療機能の集約化・重点化

- 産科・産婦人科医師1人当たりの年間分娩件数が多い県北地域について、産科医療資源の集約化・重点化を図り、産科セミオープンシステムを活用し、産科のない地域には助産師外来を設置していきます。

2 医師の確保と助産師の専門性の活用

- 産科・産婦人科医師及び新生児医療に関わる小児科医師の確保や待遇改善のための環境整備に努めるとともに、助産師外来の設置等、助産師の専門性を活用していきます。
- 助産師外来を設置し、妊婦健診を行うことにより、地域の妊婦の利便性を向上します。また、助産師外来が母子保健医療機能としての役割も果たすことで、妊婦が安心感を持って妊娠期を過ごせる体制の整備を図ります。

3 新生児医療提供体制の充実

- 出生数全体に占める低出生体重児数の割合の増加等に的確に対応できるよう、医師の確保や総合・地域周産期医療センターのNICU等の施設設備の整備の確保・充実に努めます。

4 NICU長期入院児支援コーディネーターの配置

- NICU,GCU等長期入院している乳幼児について、状態に応じた望ましい療育・療養環境への円滑な移行を図るため、総合周産期母子医療センターにNICU長期入院児支援コーディネーターを配置し、長期入院児の状態に応じた移行先の確保に努める等、重症児が在宅へ安心して移行ができる体制の整備を推進していきます。

5 ICTによる周産期医療ネットワークシステムの構築

- 宮城県全域の周産期情報の把握とそれをデータベース化することによって課題解決に活用して継続的な周産期医療体制を実現するため、また災害等緊急時に備えるため、病院、診療所、検査機関、行政機関等をICTによるネットワークで結ぶシステムの開発・構築を推進していきます。共通診療ノートを用いた仙台産科セミオープンシステムの運用を基に、将来的には全県で使用可能なシステムの運用を目指します。

以上に掲げるもののほか、必要な施策については宮城県周産期医療体制整備計画で具体的に示しています。

数値目標

| 指 標 | 現 況 | 平成29年度末 | 備 考 |
|-------------------------------------|-----------------------|---------|--|
| 周産期死亡率（出産千対） | 3.8 （全国 4.2） | 3.5 以下 | 平成22年人口動態統計（厚生労働省） |
| 産科・産婦人科医師1人当たりの年間出生数（出生数／産科産婦人科医師数） | 103.95 （全国 100.57） | 100 以下 | 平成22年医師・歯科医師・薬剤師調査、平成22年人口動態統計（厚生労働省） |
| 母体・新生児の県外搬送件数 | 3人 | 0人 | 平成22年宮城県における周産期医療の現状報告書（仙台市医師会 新生児救急対策委員会） |